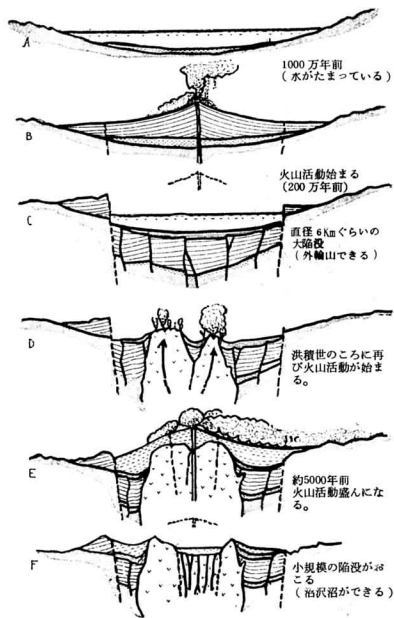


31 火山によってどのような地形ができるのだろうか

県内各地の火山を見ると、いろいろの形のものがあります。その大きな原因として火口から流し出される溶岩の性質の違いをあげることができます。

表-2は、その溶岩の性質の違いと火山の形をあらわしています。これからわかるように、溶岩の色が黒っぽいものは、ねばりけ（粘性）が少なく、火口から流し出されたものは、さらさらと広がって行って、なかなか高い山にならないのです。一方、白っぽい溶岩は、一般に粘性が大きく、非常に流れにくく、お寺の鐘をふせたような形の山になるのです（表-2参照）。前に述べた火山を一般に楯状火山といい、県内では、会津のしょうぶ菫蒲平、皿伏山が代表的で、あとの鐘状火山では、尾瀬のひうちが岳の中や、東山の傘岩（からかさいわ）があげられます。

沼沢火山の地形変化



(原図、福島県の地質より)

また これらの中間的な火山の形として成層火山があり、吾妻小富士、磐梯山などがあげられます。

このようにして多くの溶岩を外に出すと、地下がからっぽになってしまい、山の中ほどが落ちこんでしまい、その中央に大きな穴ができてしまうことがあります。これをカルデラと呼んでいます。

		火山岩		
		けんぷ岩	あんざん岩	りゅうもん岩
マグマの性質	色	黒っぽい	灰色	白っぽい
	珪酸の量 SiO ₂	少ない	52%—68%	多い
	温度	1,200℃	←	600℃
火山の性質	ねばり	少ない	←	多い
	噴火のはげしさ	おだやか	小噴火か むんぼん	大噴火
火山の形	火山灰 火山礫	少ない	←	多い
	溶岩の量	多い	←	少ない
火山の形				

表-2

このようなことが組みあっていろいろの形の山ができあがるのです。